

# 国の指針と府の計画

結核対策を効果的に進めるためには、地域の結核疫学的な実情をふまえながら、国、都道府県、市町村、医師や看護師・保健師などの医療従事者、国民ひとりひとりが、それぞれの役割を果たすことが大切です。

結核対策における国及び都道府県の役割を明確化し、これを計画的に進めることを目的として、国が結核予防のための基本指針を示し、それに沿って大阪府が地域の実情に応じた結核予防のための計画を策定します。この指針と計画の中で具体的な結核対策目標を設定し、計画的に結核対策を進めています。

## 結核に関する特定感染症予防指針（国）（平成28年一部改正）

### 【成果目標】

平成32年までに人口10万対り患10以下（平成27年14.4）【低まん延国化】

### 【事業目標】

- ・全結核患者及び潜在性結核感染症の者に対するDOTS実施率を95%以上
- ・肺結核患者の治療失敗・脱落率を5%以下
- ・潜在性結核感染症の治療を開始した者のうち治療を完了した者の割合を85%以上

## 大阪府結核対策推進計画（2017年版）

### 【2020年目標】

人口10万対結核り患率 大阪府16.3以下（政令市除く大阪府12.6以下）**[10以下]**  
（2015年 大阪府：23.5 政令市除く大阪府：18.2）

### 【実施目標】

（発生の予防及びまん延の防止）

1. 結核にかかる**定期健康診断実施報告書提出率の向上**  
（2015年度提出率 学校85.7%、高齢者施設74.5%、病院97.4%）
2. BCG接種率**95%以上 [95%以上]**（2015年度実施 府保健所98%）
3. **接触者健康診断の実施率 1回目98%以上 2回目95%以上**  
（2014年新登録患者 初回98.2% 2回目94.2%）

（適切な医療の提供）

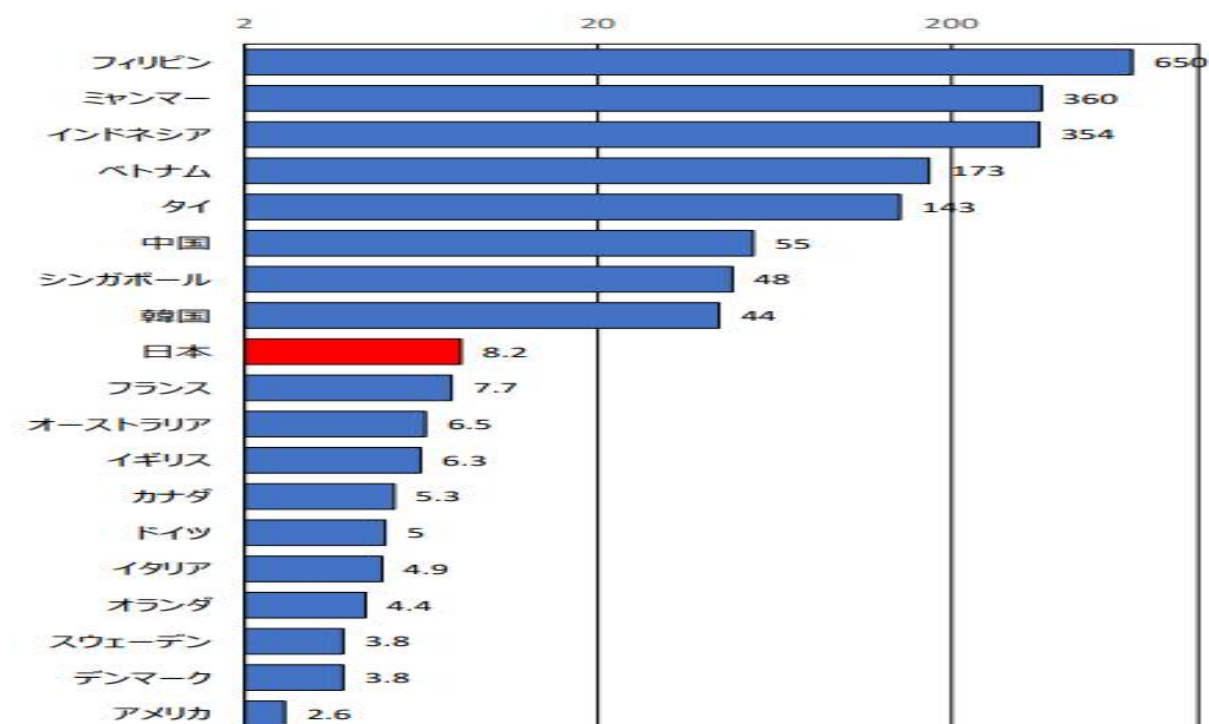
1. 結核患者**発生届提出率（1日以内）100%**（2014年新登録患者 府保健所81.3%）
2. **診断の遅れ（1か月以上）15%以下**（2015年新登録患者22.4%）
3. 全結核患者**治療失敗、脱落率5%以下 [5%以下]**（2015年新登録患者2.6%）
4. 潜在性結核感染症患者の**治療完了率85%以上 [85%以上]**  
（2014年新登録患者 府保健所89.3%）
5. 新登録肺結核患者の**再治療率7%以下 [7%以下]**（2015年新登録患者5.9%）
6. 全結核患者に対する**DOTS実施率95% [95%以上]**（2014年新登録患者98.9%）

※[ ]は国の目標値

# 結核の蔓延状況

世界では、総人口の約 4 分の 1 の人が結核菌に感染していると言われており、Global Tuberculosis Report 2022 の報告より、1,060 万人の新規患者が発症し、160 万人が結核によって死亡しています。世界の結核り患率では、東南アジアで高い状況です。また結核と HIV の重複感染や多剤耐性結核が世界中で大きな問題となっています。

## 世界の結核り患率 (人口 10 万対)



2023.7 現在

日本の数値は「結核の統計 2023」、諸外国は WHO's "TB country, Regional and global profiles" 推定罹患率 (2023.7.4 アクセス) をそれぞれ引用

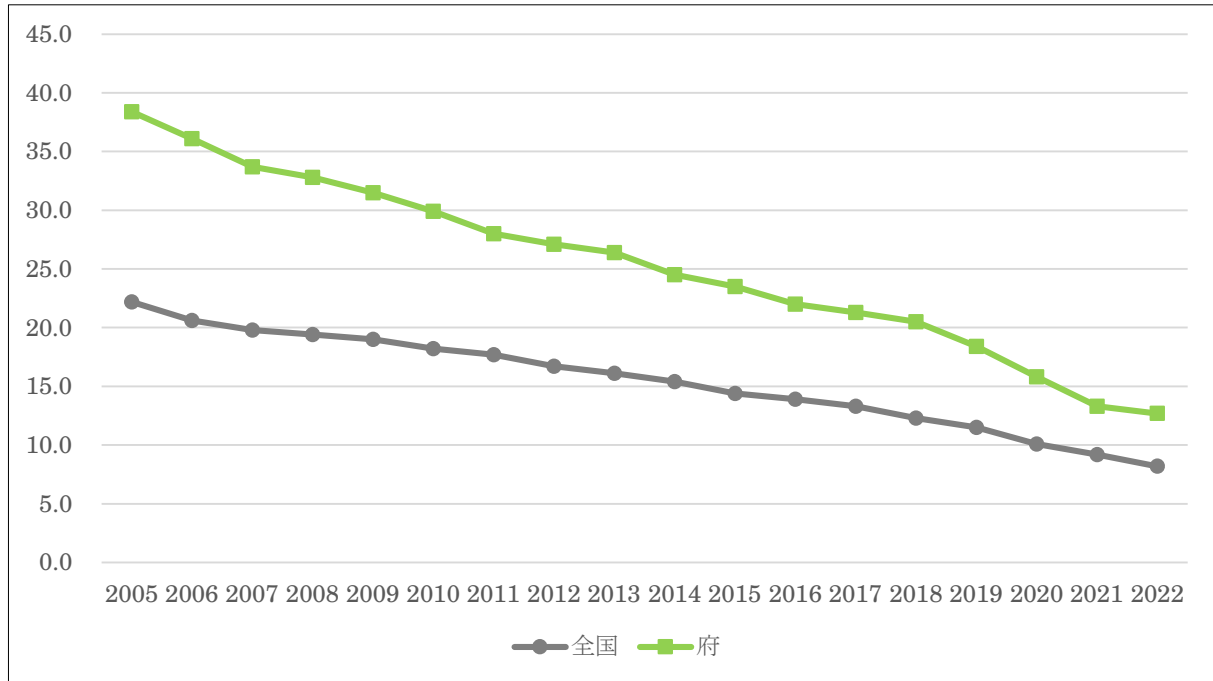
(疫学情報センター 世界の結核、日本の結核より引用)

一方、日本では、かつて結核が蔓延し、昭和 25 年までは死因の第 1 位であり「国民病」と呼ばれていましたが、近年になって結核対策の推進や医学の進歩によって順調に減少してきました。平成 11 年に逆転上昇し、以後再び緩やかに減少していますが、完全に制圧できたわけではありません。その原因として、結核が過去の病気と考えられて診断が遅れることや、高齢化による免疫力の低下によって発病することなどが挙げられます。また最近では、結核を発病した人のうち外国生まれの患者は約 1 割であり、20~29 歳では約 7 割を占めています。

令和 3 年、日本では 11,519 人 (り患率 9.2) が結核を発病し、1,845 人が死亡しています。日本では、今でも 1 年間に 1 万人以上結核を発症していますが、令和 3 年のり患率が 10 (人口 10 万に対して) を切り、日本は「低蔓延化」を達成しました。

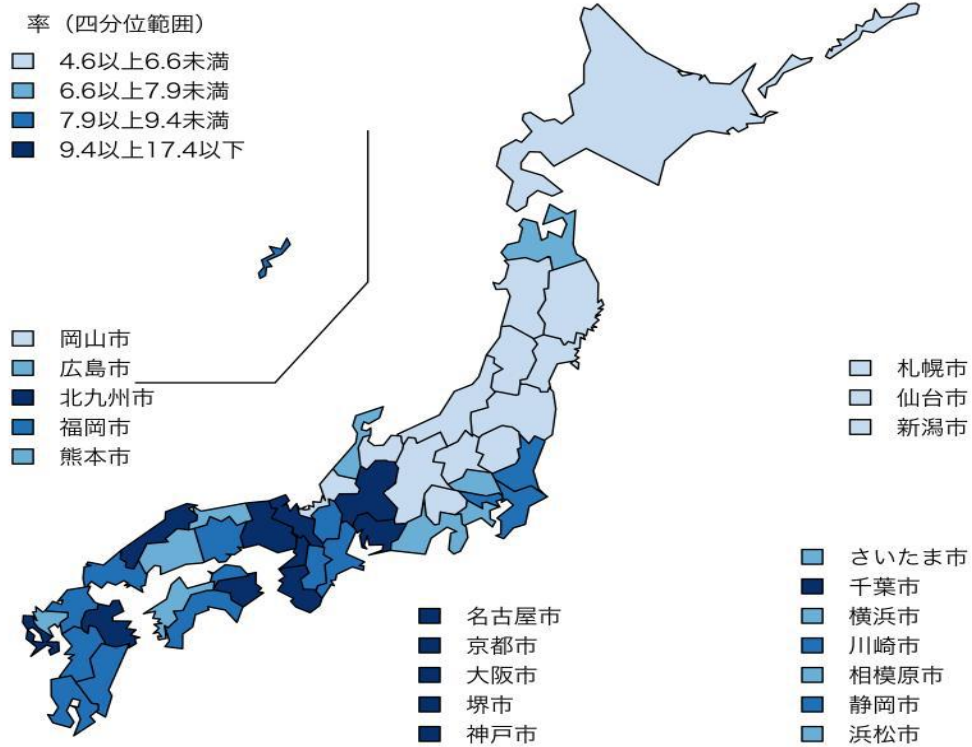
大阪府は、結核り患率全国ワースト 1 である状況が 20 年以上続いています。令和 4 年には 1,118 人の新規結核患者が発症し、そのうち周囲に感染させる可能性のある喀痰塗抹陽性肺結核患者は 454 人で 41% を占めています。

## 日本全国及び大阪府の結核り患率の推移 (人口10万対)



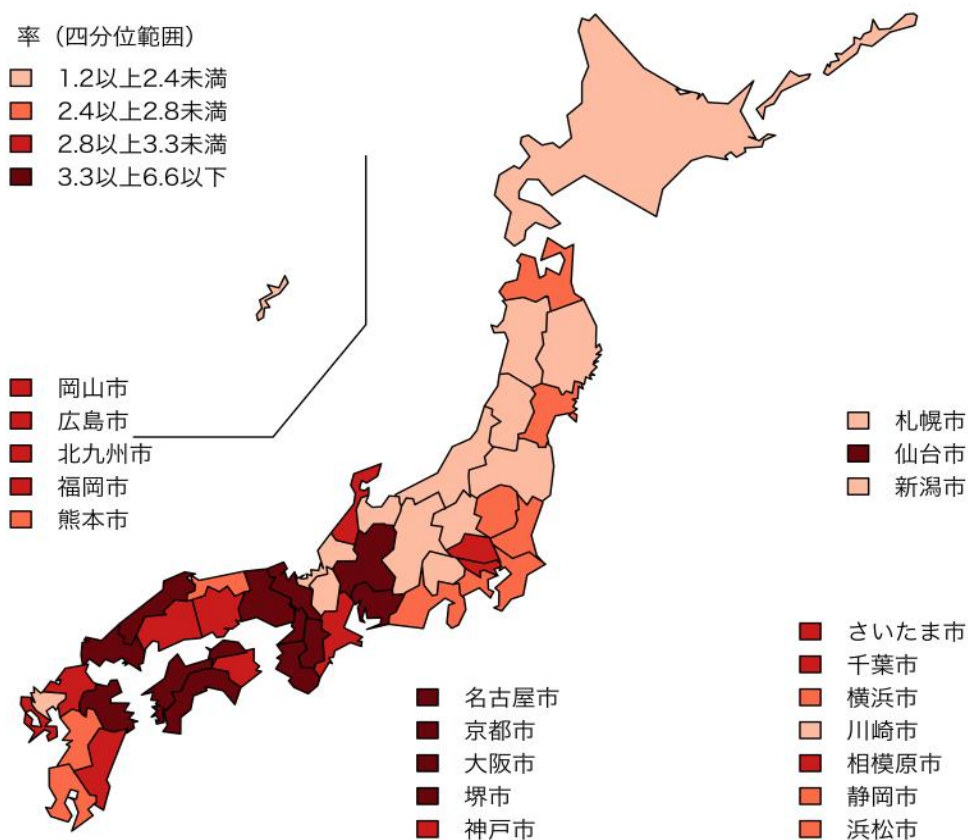
## 都道府県別の結核り患率 (人口10万対)

全結核罹患率(人口10万対) 2022



# 塗抹陽性肺結核患者率 (人口10万対)

喀痰塗抹陽性肺結核罹患率(人口10万対) 2022



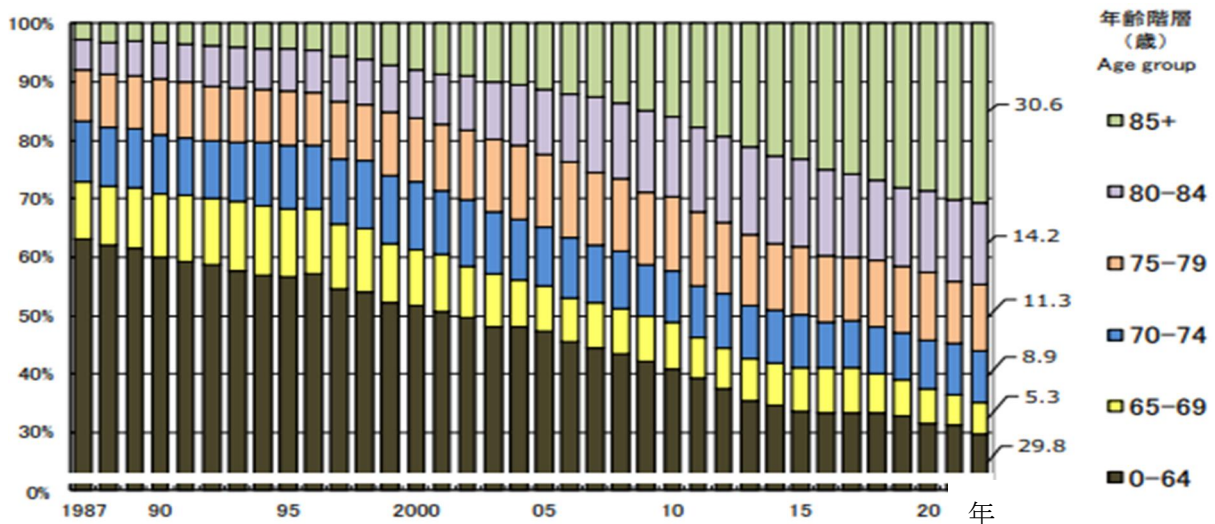
(結核予防会結核研究所 疫学情報センター 喀痰塗抹陽性肺結核罹患率地図より引用)

## 高齢者の結核状況

結核患者数は全体として減少していますが、高齢者の割合はむしろ増加しており、2022（令和4）年には60歳以上の高齢者が占める割合は70%以上になっています。2025（令和7）年の推定既感染率は80歳で36.3%を占め、依然として、かつて結核が蔓延していた時代に結核菌に感染していた方が高齢者となり、免疫の低下に伴って発病する人が今後も出てくるといことが示唆されています。

高齢者は呼吸器症状が出にくいなど結核特有の病状を呈することが少ないため発見が遅れること、基礎疾患や低栄養により病状の進行が速い傾向にあります。さらに、基礎疾患や副作用の出現により、結核登録中に結核もしくは基礎疾患や肺炎によって死亡に至る例も多くなっています。

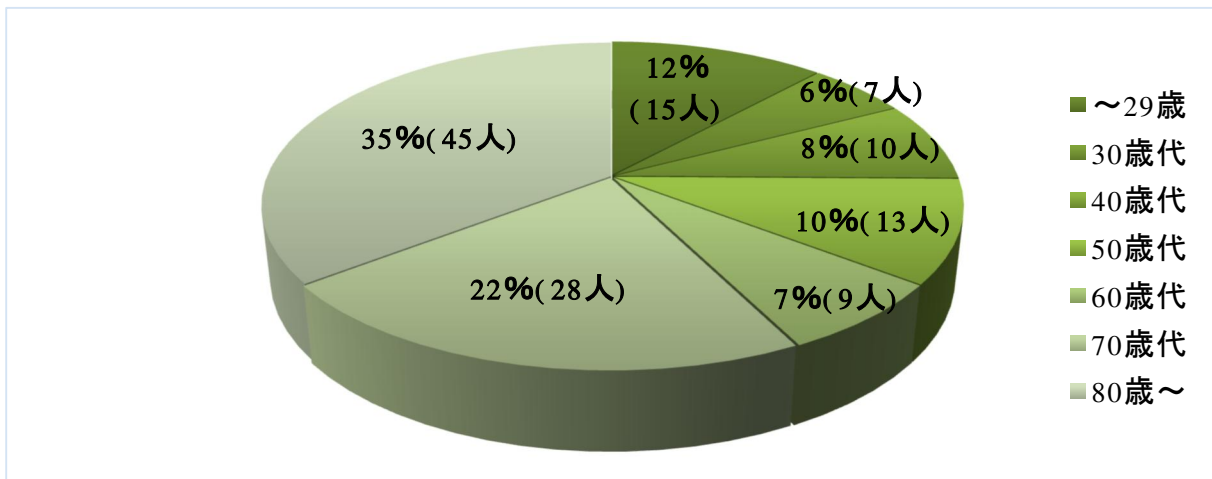
### 新登録結核に占める高齢者の割合の推移



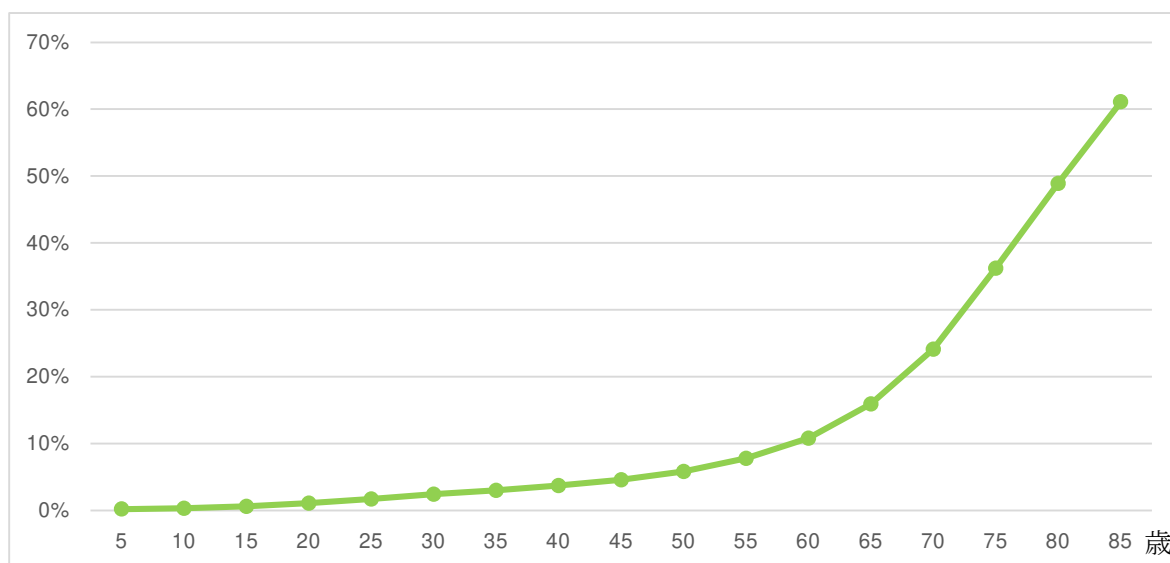
(新登録結核患者内の高齢者結核患者が占める割合の年齢階層別年次推移、1987-2022年より引用)

### 泉佐野保健所管内の新規登録者年代別割合 (令和3~5年)

泉佐野保健所管内では、令和4年に70歳以上が70.2%を占めており、全国のデータと比較して高齢者結核が多いことがわかります。

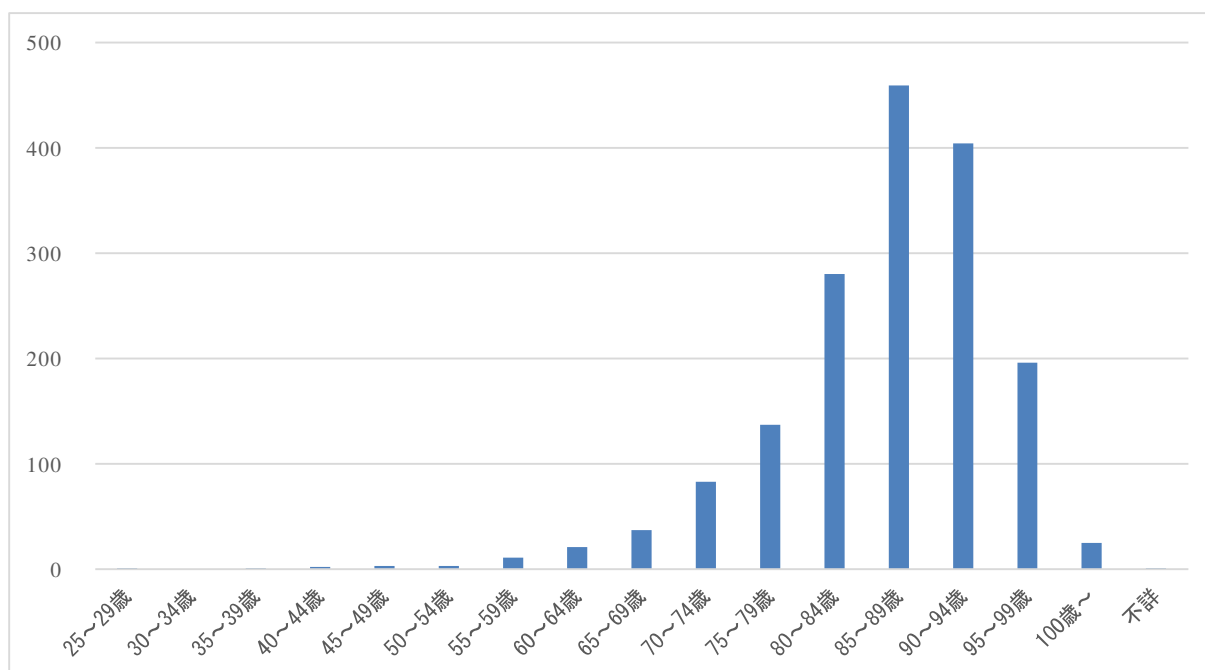


## 年齢別推定既感染率（令和2年時点）



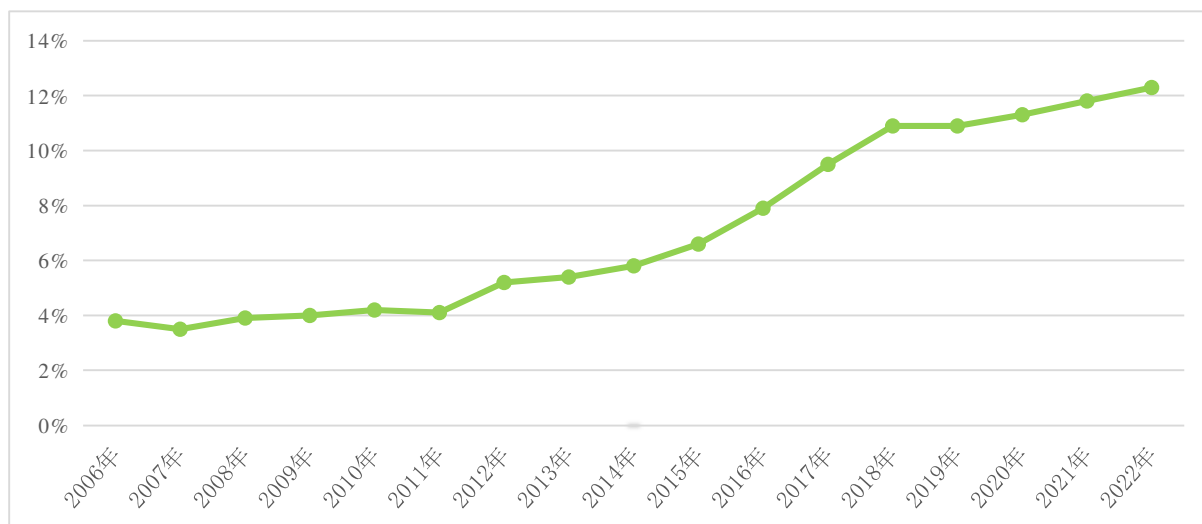
（疫学情報センター 結核既感染者数の推計 2009より引用し一部改変）

## 年齢階級別結核死亡（令和4年）



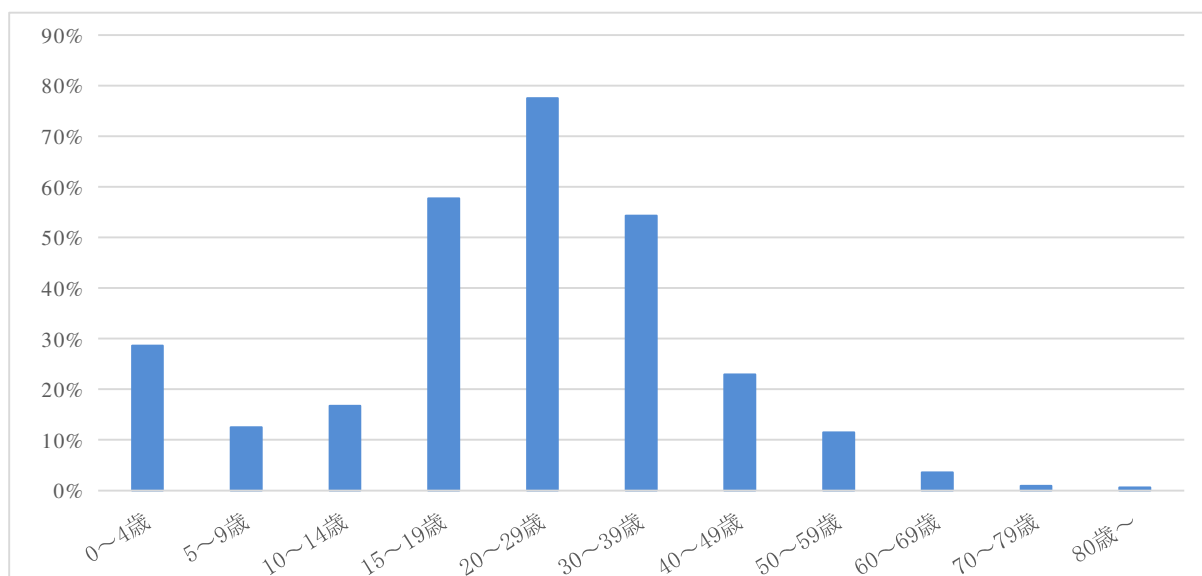
（結核予防会結核研究所 疫学情報センター 年報2022より引用）

## 【Topics】 外国出生結核患者が増加傾向にあります 新登録結核に占める外国人の割合の推移



(結核研究所 疫学情報センター 結核発生動向概況・外国生まれ結核より引用)

## 年齢階級別、新登録結核に占める外国人の割合



(結核研究所 疫学情報センター 令和4年結核年報集計結果について 表5-7. 年次別・年齢階級別外国生まれ新登録結核患者数より引用)

日本における外国出生患者の数は年々増加傾向にあります。2022年に新登録となった外国出生結核患者の数は1,214人であり、割合は12.3%です。年齢階級別の新登録患者に占める外国出生者は、20～29歳で77.5%に達しており、若年層の外国出生患者が増加しています。

外国出生患者の出生国のうち患者数が多かったのはフィリピン、次いでベトナム、インドネシア等アジアの高蔓延国でした。今後も外国出生患者数は増加することが推測され現在、入国前結核スクリーニング制度も検討されています。